

詩織 Shiirui

最終章下巻 しあわせのカタチ

あいざわひろし
岩崎啓真

Volume **30** The Final Part

For Adult

The Shape of Happiness

詩織

Shiwoi

最終章下巻 しあわせのカタ子

あいざわひろし
岩崎 啓 眞

Volume **30** The Final Part

For Adult

The Shape of Happiness

詩織

Shining

最終章下巻

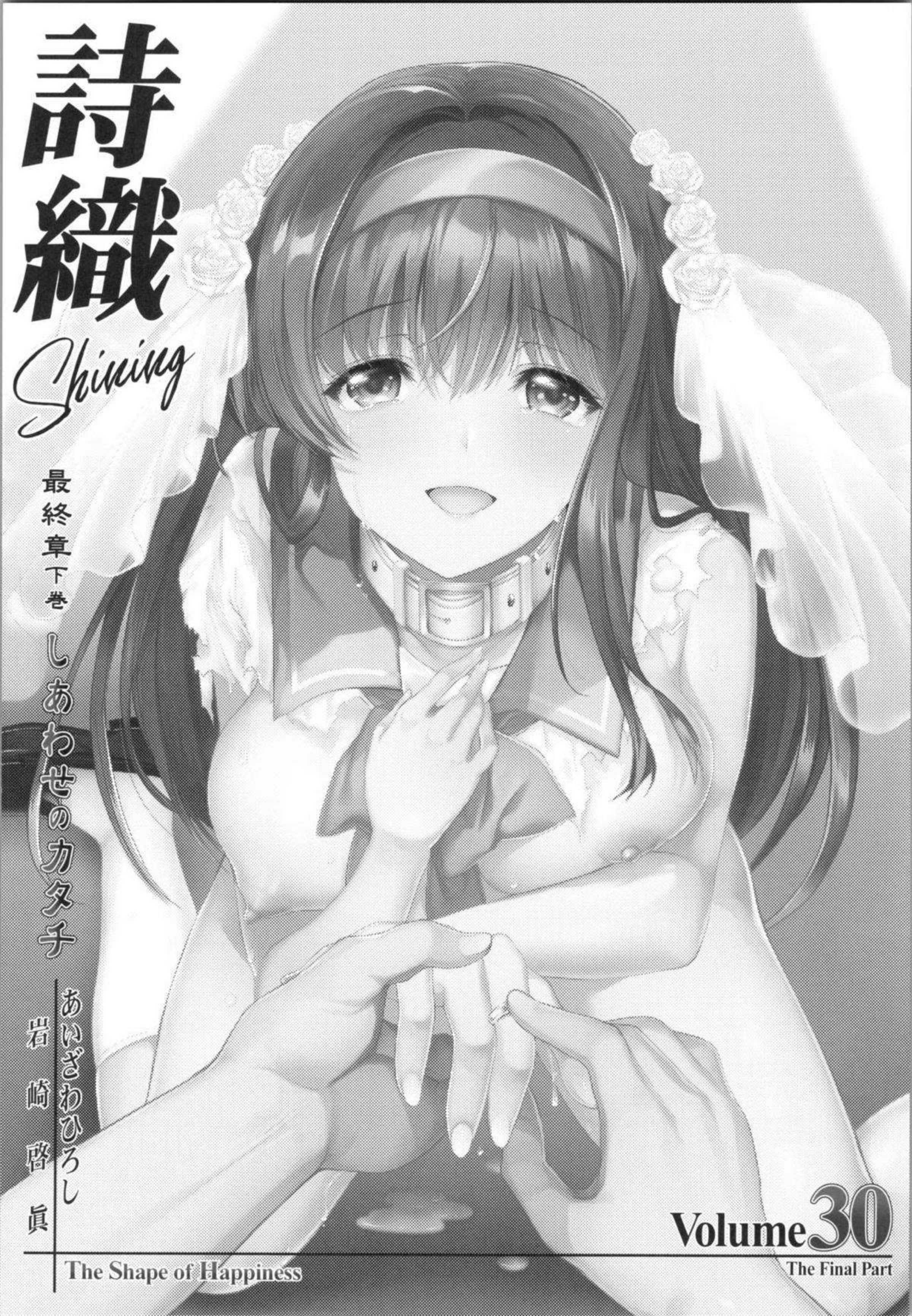
しあわせのカタチ

あいざわひろし
岩崎啓真

The Shape of Happiness

Volume **30**

The Final Part



The Characters in

This Comic

藤崎詩織

Shiori Fujisaki



成績優秀、スポーツにも秀でていながら、謙虚な性格で私立K高校のアイドルと謳われた美少女。両親を交通事故で失い、一人暮らしをしていたが、ある日、クラスメート島田雄二の卑劣な罠に落ち、全裸緊縛写真で脅され、処女を失ってしまう。そしてセックス奴隷として調教され、クリスマスに、好きな岩永にまで調教を知られてしまう。その直後に羽黒に拉致されてアダルトショップで売春させられるが、島田に助け出される。だが、冬休み明けの学校では売春がばれていて、友達を失い、クラスメートに輪姦され、心が折れて島田に「好きです」と言う。そして不登校になったある日、島田とデートに行く途中、肉屋の毒島に薬を盛られ、拉致監禁され、薬屋の鬼窪と毒島の二人に調教されてしまう。偶然から毒島が鬼窪を刺殺したことで、詩織は島田のもとに帰れるが、鬼窪に調教された体はセックスなしでは生きられないほどになってしまっていた。そして卒業式の日、詩織が男子生徒に呼び出され犯されてしまう。そこに羽黒がやってきて、詩織を犯した後、覚せい剤を打とうとするが島田が阻止する。そして、羽黒と島田は詩織の目の前で屋上から落ちてしまうのだった。



島田雄二
YUJI SHIMADA

クラスをつまはじきだったが、本人は「お前らとは違う」と強がっていた。ふとしたきっかけから詩織を強姦し、とりまきの公衆便所にしたことで一目置かれる存在になった。卒業式間近の学校で詩織をクラスメートに輪姦させ、ついに詩織に「好きです」と言わせ、有頂天になったが、毒島と鬼窟に詩織を奪われた。鬼窟の死によって帰ってきた詩織は別人のようにセックスを求める女にされており、それに違和感を感じつつも、島田は卒業したら一緒に町を出ようというが、卒業式の日、屋上から羽黒とともに転落した。



岩永芳明
YOSHIAKI IWANAGA

藤崎詩織の幼なじみで同学年。ハンサムだがほんやりした性格。詩織が好きだったが、調教された詩織を島田にクリスマスに見せられたあと、様々な出来事を経て、学校で輪姦されている詩織に向かって「ケツ掘ってもらって、よがってればいいさ。変態女」と言い放ってしまうが、詩織への想いを断ちがたく、悩んでいた時、毒島に「詩織は島田に脅されて、無理矢理犯された」と聞かされる。そして卒業式の日、島田を問い詰め、ついに詩織は島田に強姦されたと確信するが、その直後、島田と羽黒は屋上から転落してしまう。



私立K高校の元体育教師。島田の手引きで詩織をいたぶっていたが、詩織が金になることに気がつき、売春で稼ぎ始める。だが、それが不愉快だった島田に畏をかけられ、K高校を辞職する。クリスマスに島田を病院送りにして詩織を拉致し、アダルトショップで売春をさせていたが、警察に捕まりそうになり逃走する。覚せい剤中毒になっている。詩織を拉致して、国外に高飛びして金を儲けるつもりで、K高校の卒業式に忍び込み、詩織を犯した後、覚せい剤を打とうとしたが、それを島田に妨害され、島田とともに屋上から転落した。

羽黒孝三
KOZO HAGURO



詩織のクラスメート。
詩織が犯されてからあと、様子がおかしくなっているのを気にしていたが、アダルトショップのバイトを誤解した形を知り、詩織に対して「ピッチ」と言い放ってしまう。だが、それをずっとそれを後悔しており、岩永に「詩織を救えるとしたら、岩永しかいないと思う」と伝えた。卒業式の日、詩織がどこにもいないと岩永と島田に伝える。

朝日奈夕子
YUKO ASAHINA



岩永の親友。
学校の女子の情報を持っていることで有名。
詩織のことも様々な伝手から聞きこんでいたが、岩永が詩織を好きなのを知っていて、言えずにいた。
岩永が詩織のことを知ってからは、落ち込んでいる岩永をフォローしていた。三年の後半になって、朝日奈夕子とつきあいはじめた。

早乙女好雄
YOSHIO SAOTOME



久しぶりに
歌いまくったなあ
楽しかったな〜

いやあ
カラオケなんて
卒業ぶり
だもんな

あんた どんだけ
マイクひとりじめ
してんのよ



そう言うなって
いろいろ忙しくってさ
ストレスたまってたんだぜ

ふーん
あんたでも
ストレス
たまるんだ

その言い方ひでえなあ
岩永なら
俺の繊細なハート
わかってくれるよな



……うん

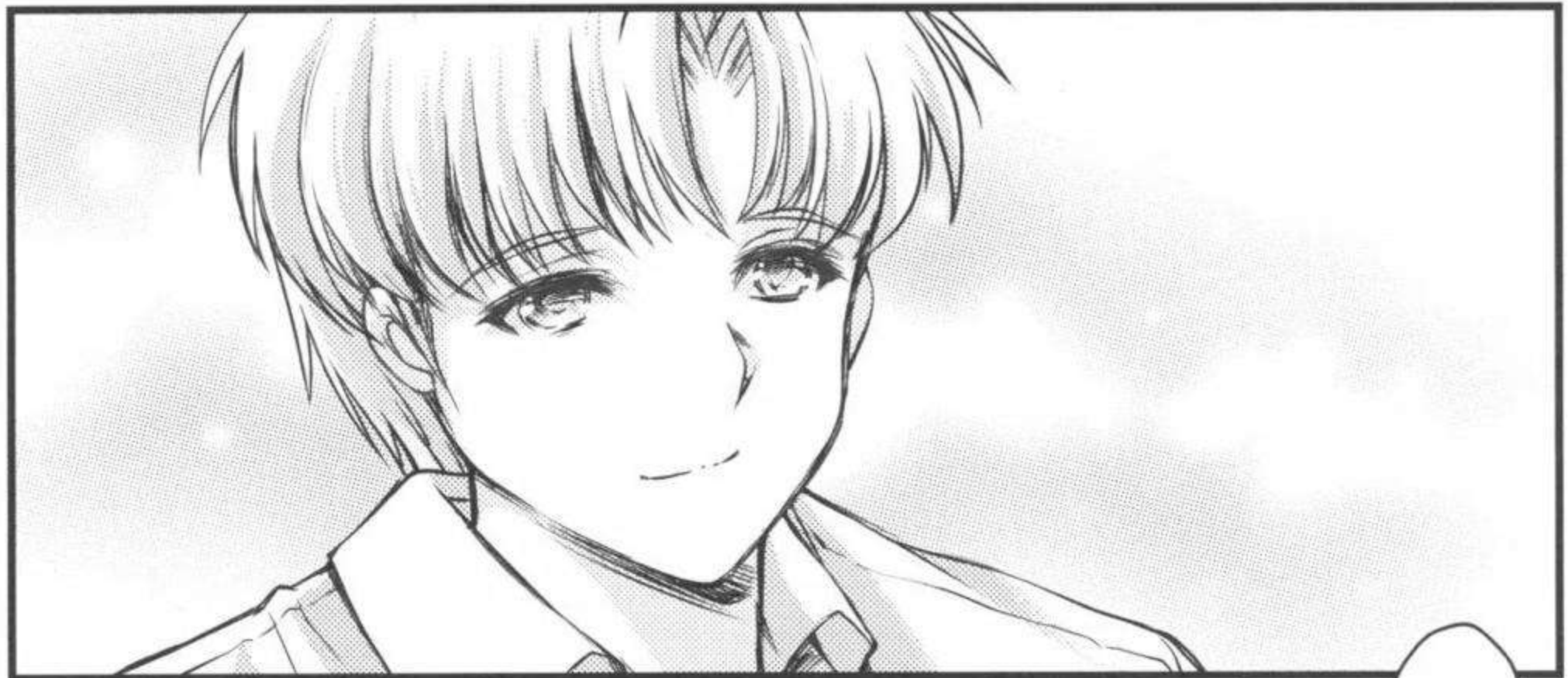
まあ

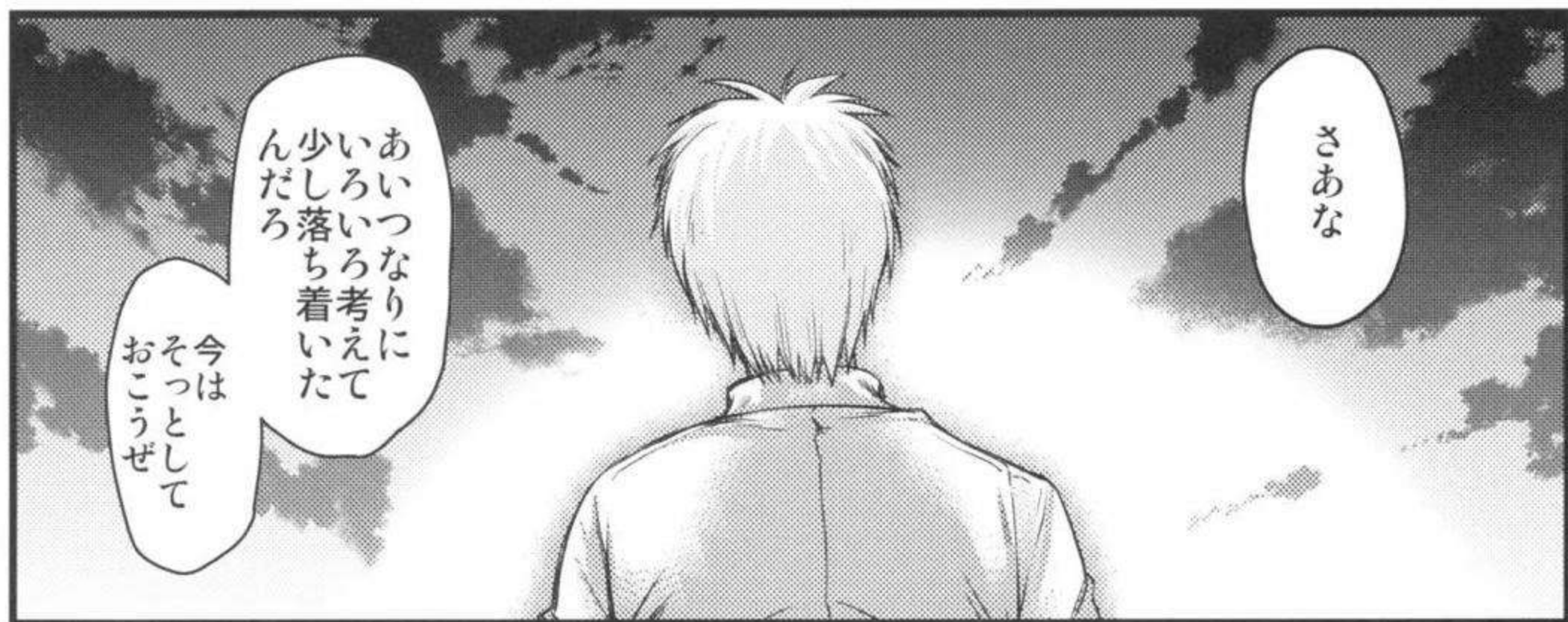
一応ね




そういえばさ
岩永くん、大学
行くことには
したんだって？

今さらだけど
おめでと



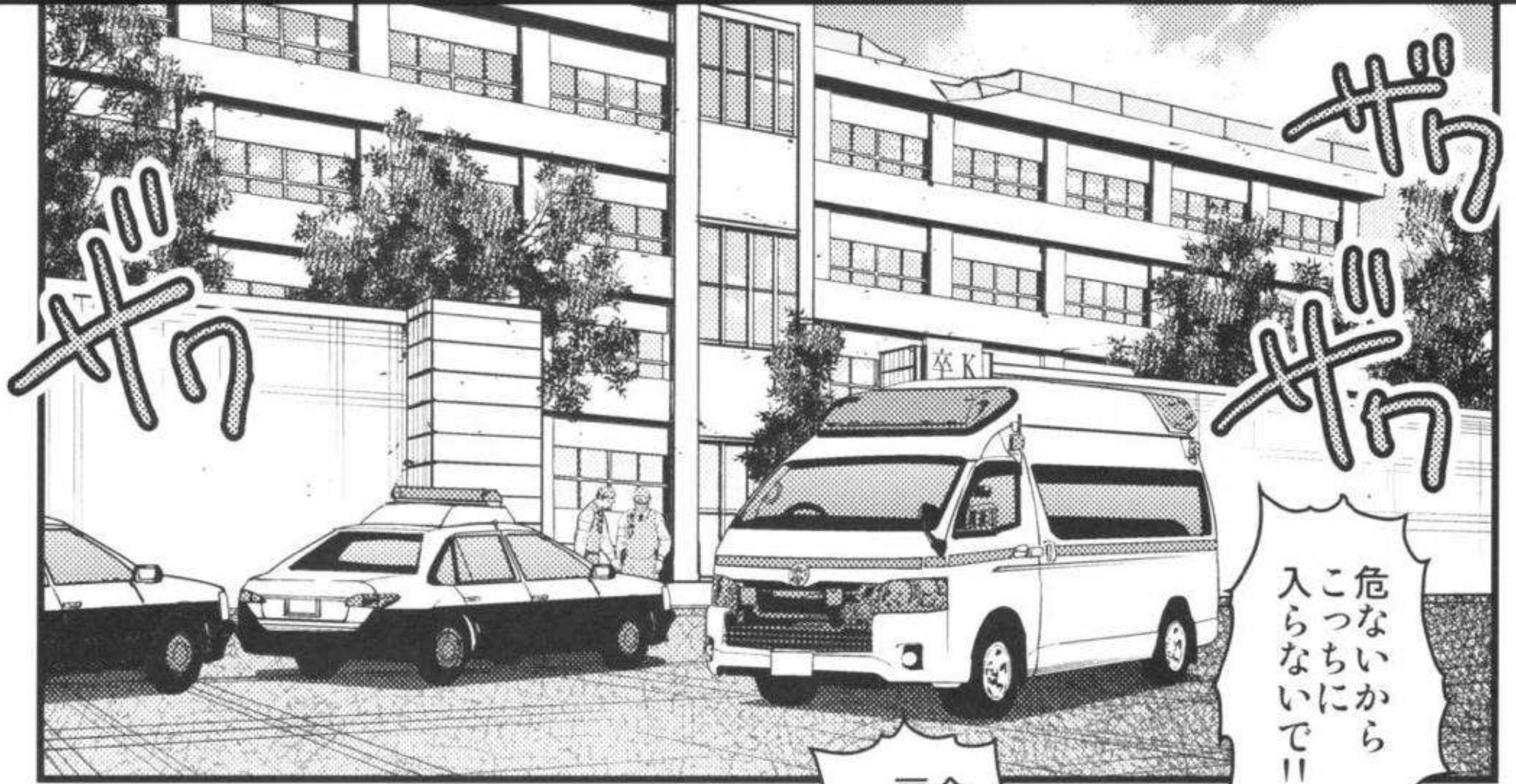




またいつか

会えるよね

詩織……



危ないから
こっちに
入らないで!!

全員教室に
戻りなさい!



落ちたの
羽黒先生らしいよ

え? 羽黒って
セクハラでクビに
なった奴じゃん

生徒と一緒に
落ちたって



人...!?
気のせいかな?

いや...
誰かいる!!



羽黒!
なんであいつが
いるんだよ!!

生徒って...
まさか...

まさか!!

卒業生は
胸に付けるん
だ

おい...

じつじつでね

俺は
いらないう
って

はい、でき
た

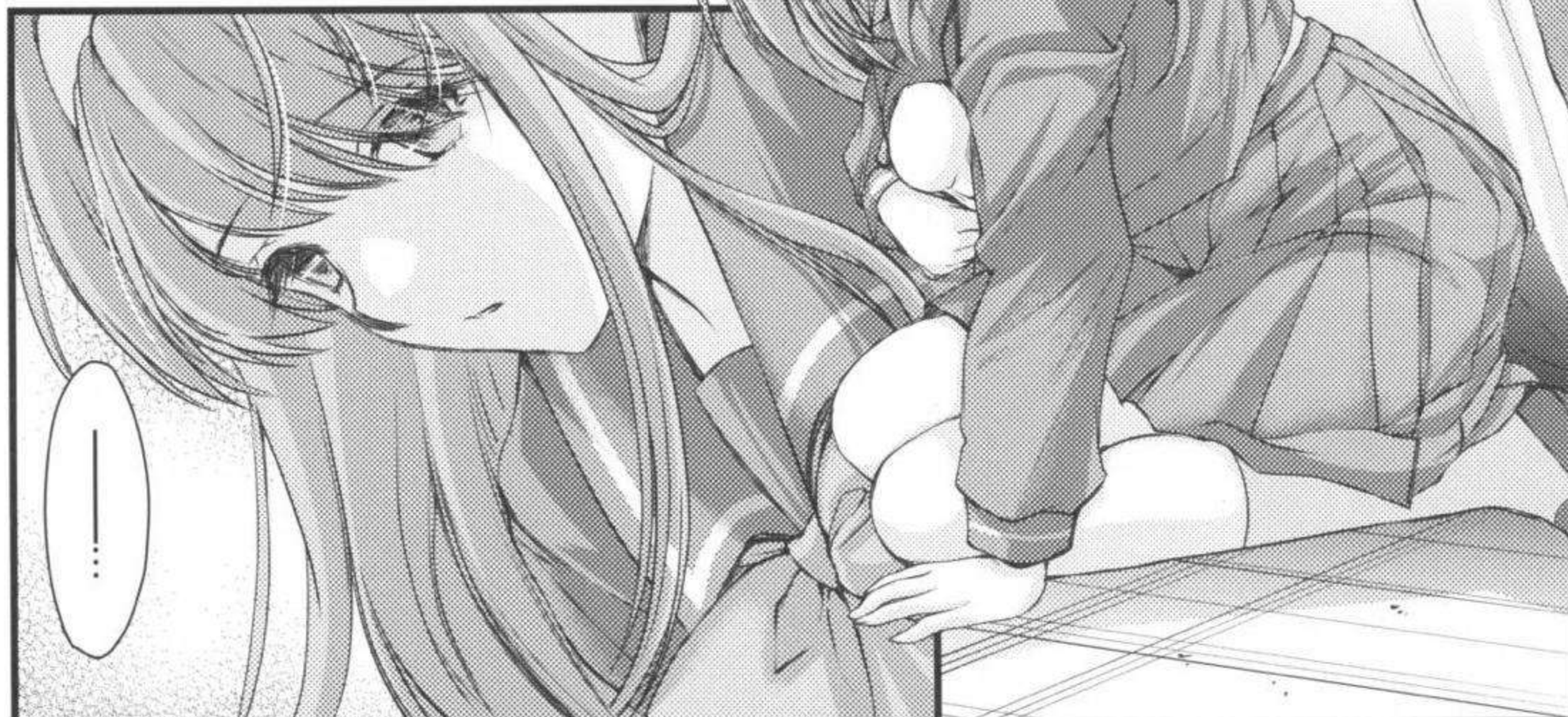
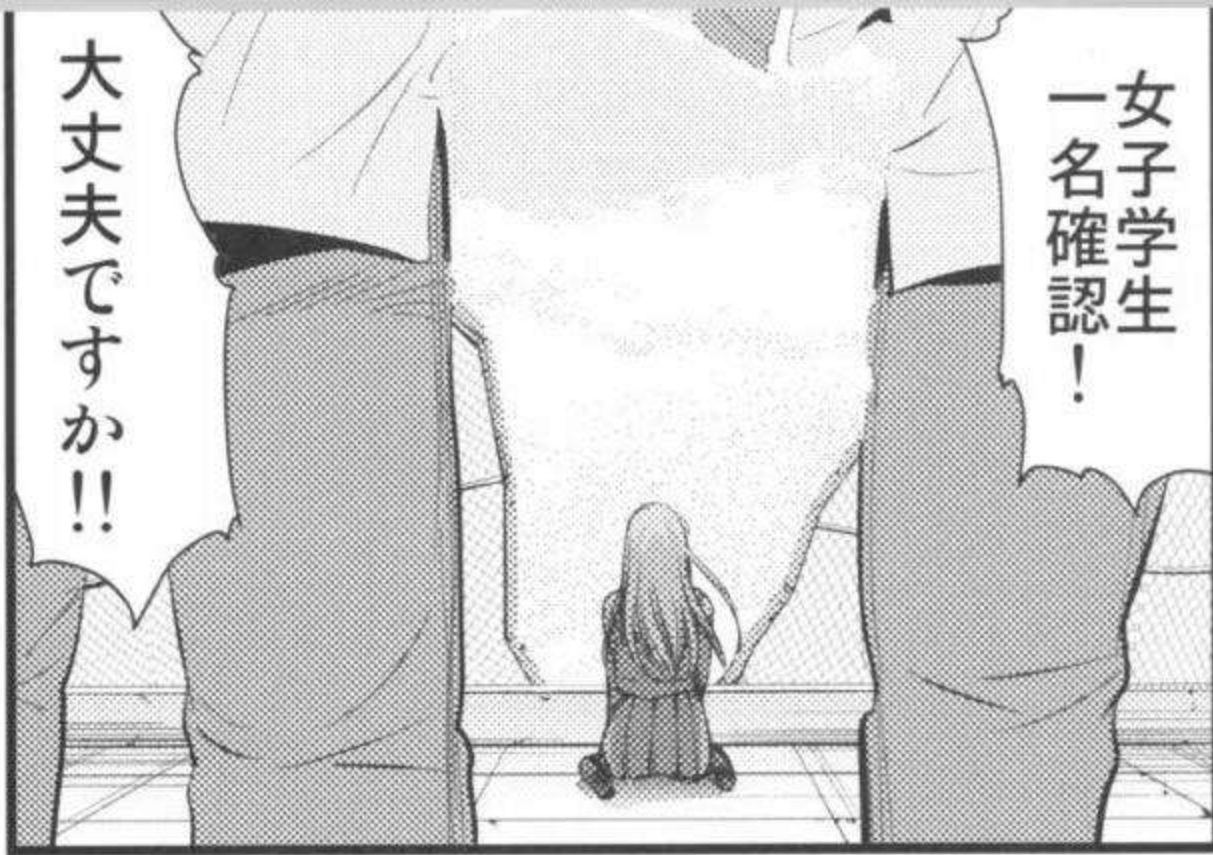
私が
付けてあげ
る

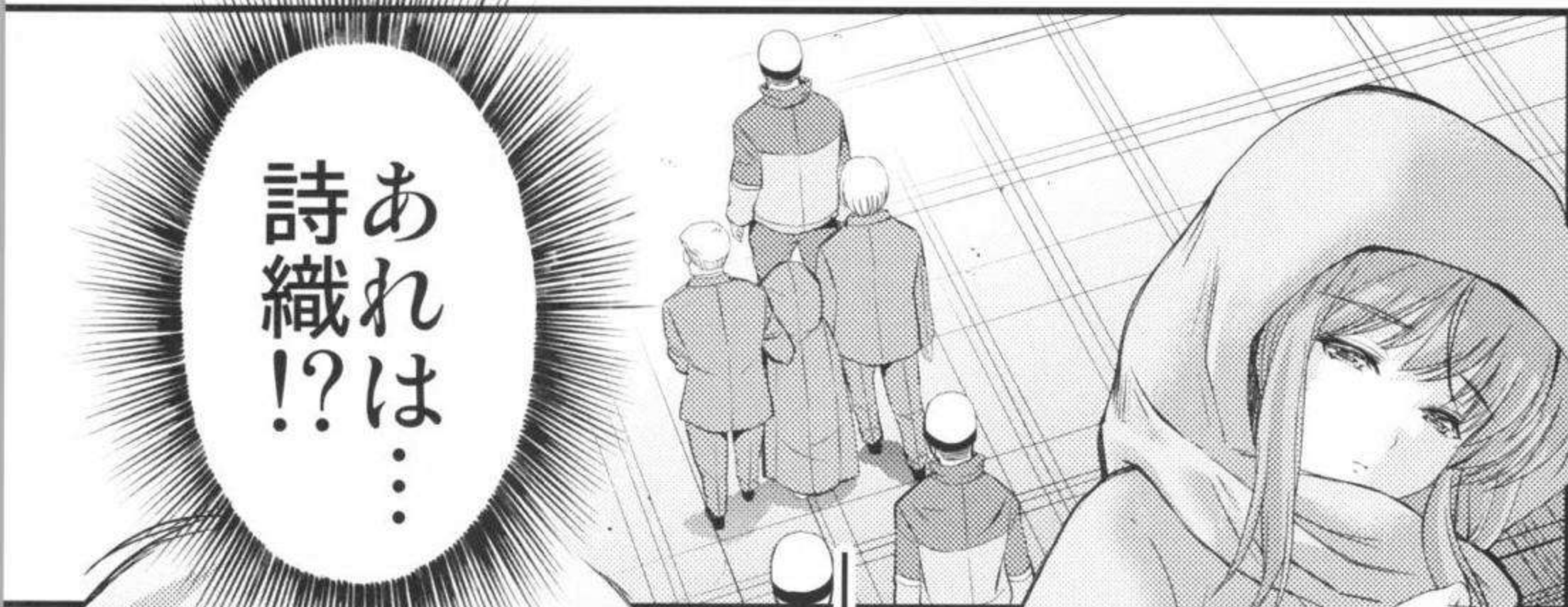
一緒に卒業しようねって言ったのに



カ
サ...







……
どういふことなのよ!!

あれは絶対
詩織だ!!

そうに
決まってる!!

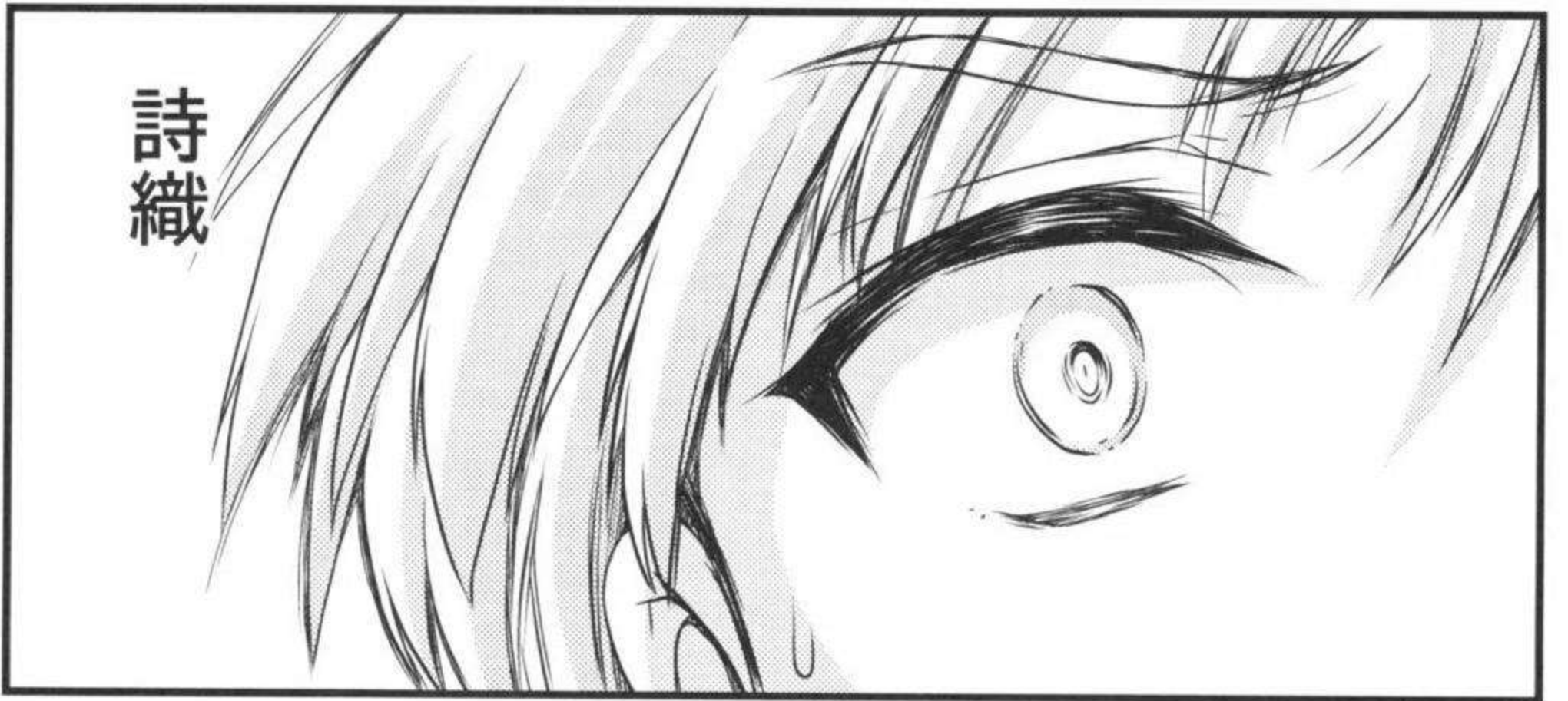
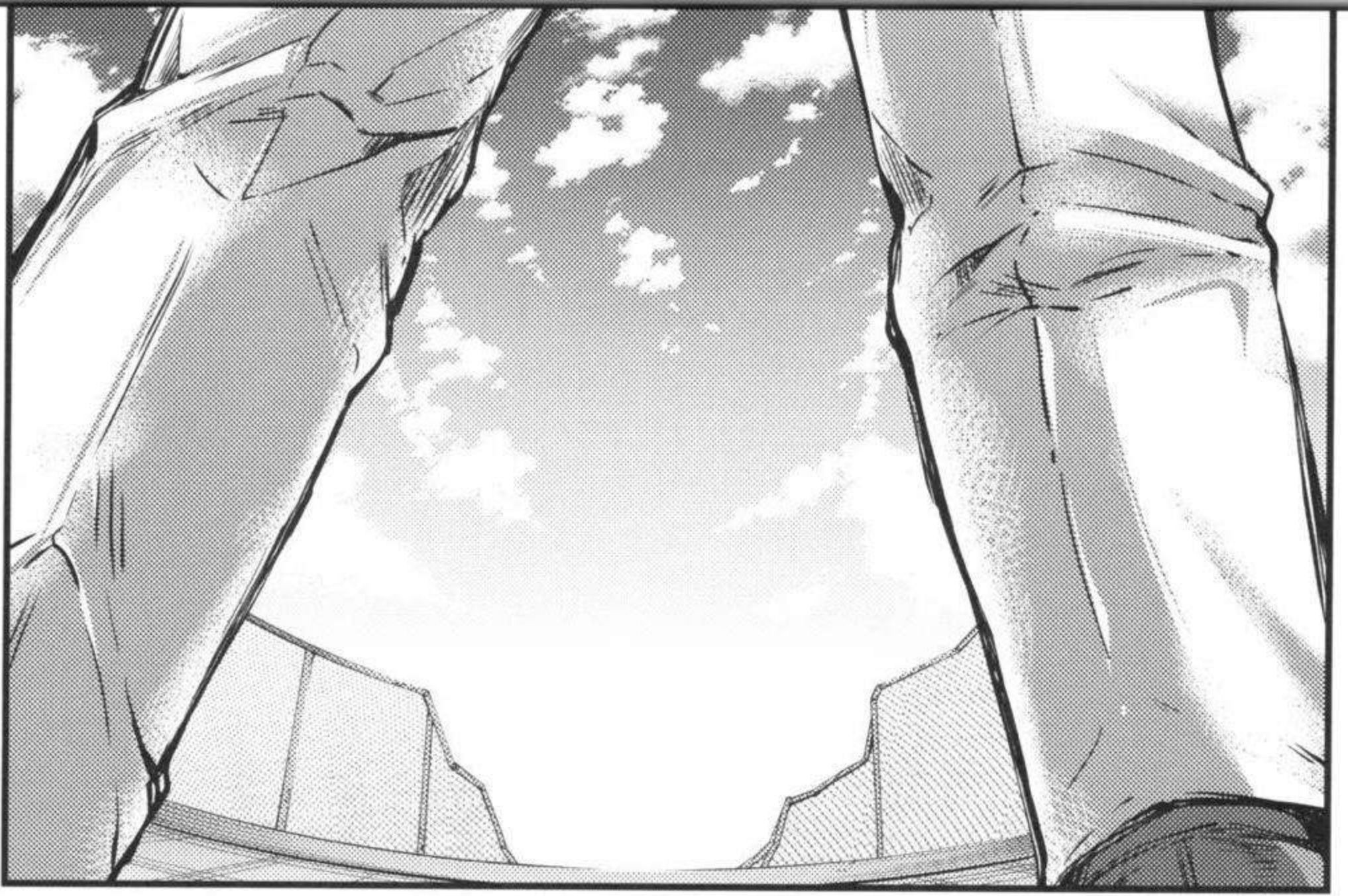
羽黒と一緒に
自殺なんか
するわけない

頼む!!

無事でいてくれ!!

詩織!!

アハ





あれから
三カ月が過ぎた

詩織は行方不明のまま

警察にも聞いたけど
個人情報教えられないと
門前払いをくらった



俺の部屋から見える
詩織の部屋は
ずっと暗いままだ



毎日家の前を通っているけど
戻ってる様子はない



え？



今日誘ってくれたのは
何か聞きたかったん
だろうな

今日だって
何も変わらな

でも
話せること
なんかないし…

売家

K不動産
TEL (XXX) XΔO-XXX

売家

K不動産
TEL (XXX) XΔO-XXX



なんだよこれ

朝は
なかつたのに



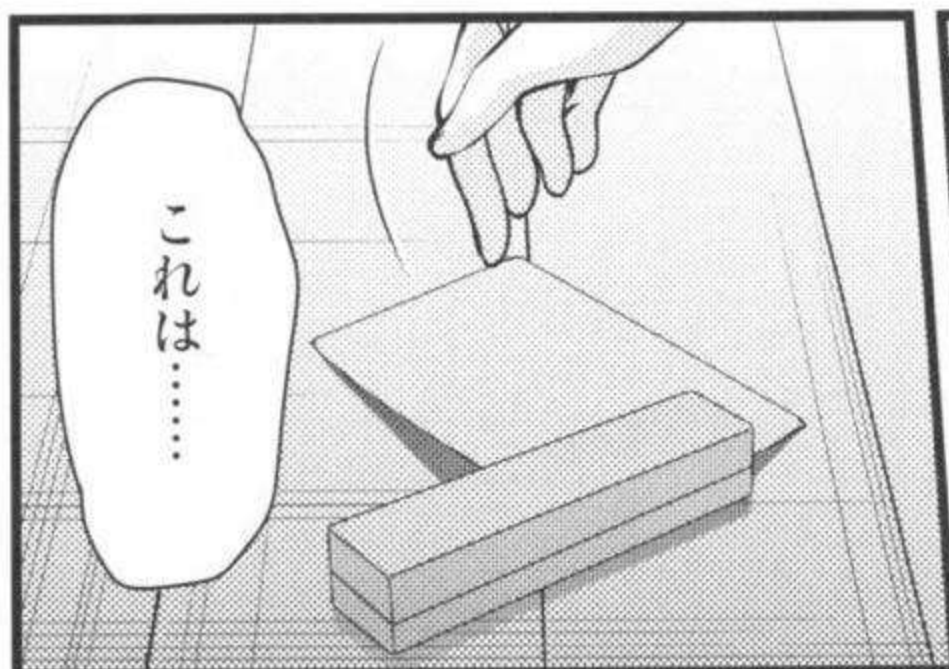
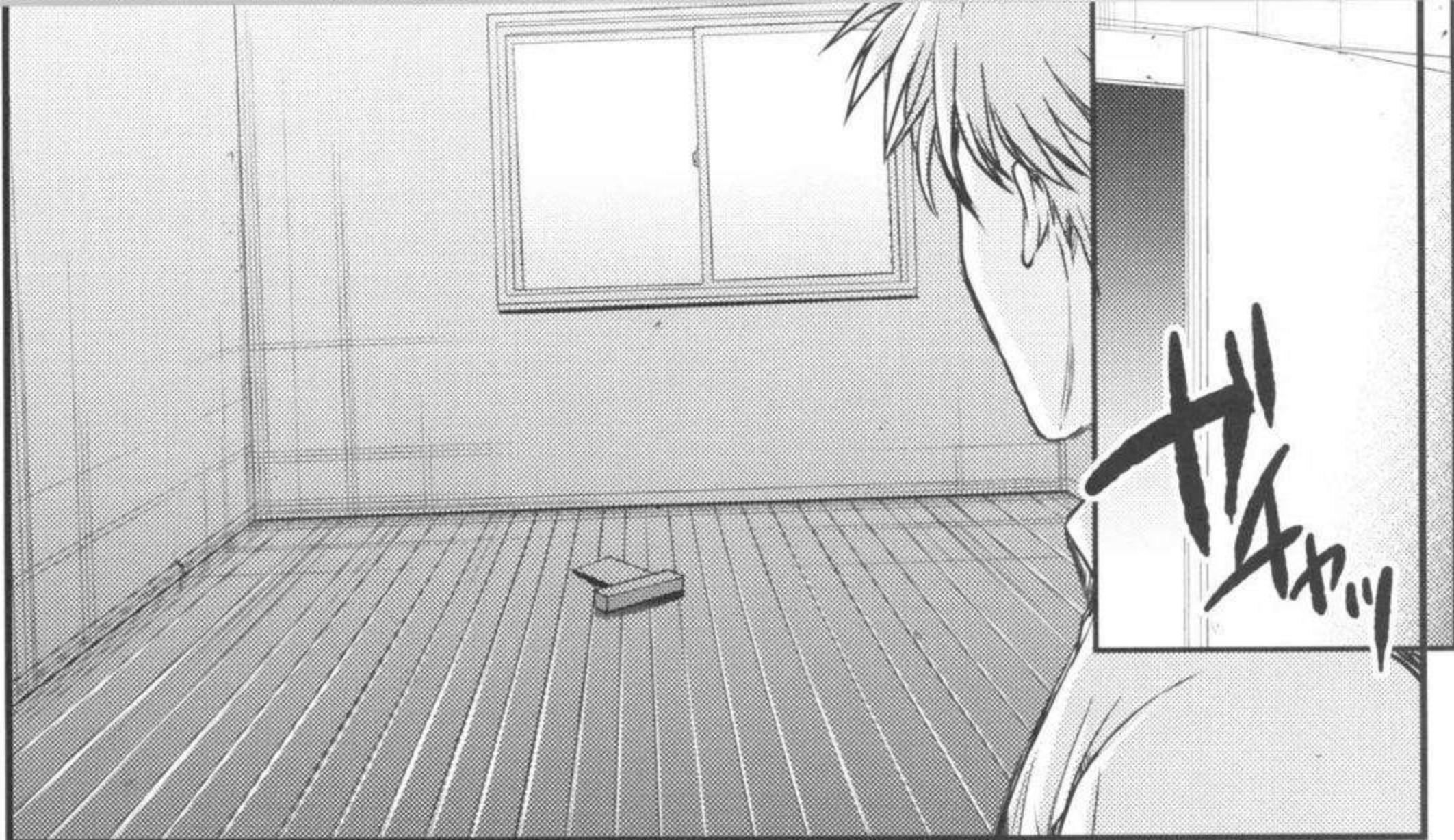
開いてる……!

帰ってるのか!?

もしかして

カチカチ





あなたにだけは
どうしても知られたくなかった
隠し通せると思っていました

そんなこと できるわけ
なかったのに

クリスマスプレゼント
とっても嬉しかったです

パツ

岩永くんへ

たくさん傷つけてしまって
ごめんなさい

でも…
私にはこれを受け取る資格はありません

こんな私が言っても
笑われるだけかもしれないけれど

あなたの気持ちを
汚してしまって
本当に
ごめんなさい

あなたのことが 本当に好きでした

ただの幼なじみじゃなく
恋人として、ずっと傍にいたかった

今まで優しくしてくれてありがとう
どうか幸せになってください

さようなら

好きでいてくれたのか……

俺のことを





詩織の気持ちに
気づけなかった

つまらない
自分のプライドと島田への嫉妬で



俺は
詩織をちゃんと見ていなかったんだ

俺だけは

信じて
助けてあげなくちゃ
いけないかったのに



もつと

早く

ごめん……

詩織……

気づいていたら……



誰か…いるの？





え…

え？



あ…あの…
忘れものを…



カサ…

あ……



手紙…!!

カサ



岩永…くん？

どうして…!!



好きなんだ!!







そんなこと
言われても…

どうしたらいいの
かわからないよ…



大丈夫

これから二人で
少しづつ
やり直していこう

遊園地に行ったり
近所の公園で
のんびり
したりさ

それとも
俺じゃ…嫌?



—嫌なわけ
ないじゃない…

どうして?
どうしてそんなに
優しくしてくれるの?

こんな…体
になっちゃった
んだよ?

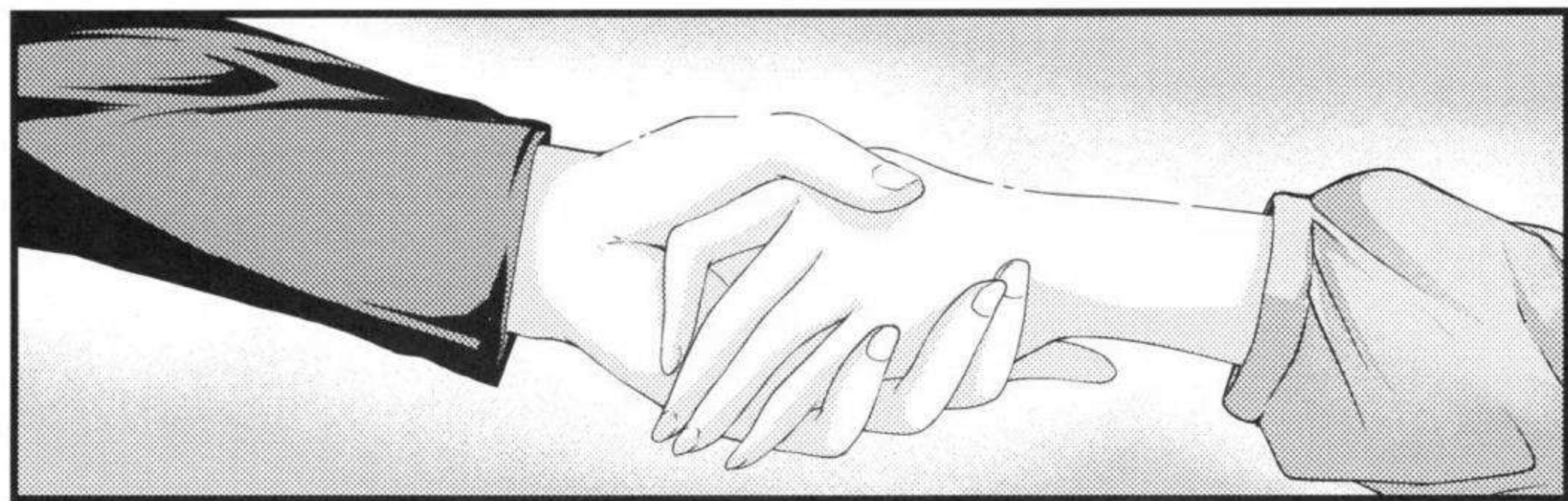
好きになってもら
う資格なんかない…





私も
あなたのことが

好き



離さない

もう



もう一度とないつて思ってた



岩永くんの体温が伝わってくる

ん

ん



あの時とは違う

やさしくて
温かいキス



ごめん…

俺…やっぱ
ダメな奴だ

ん

今…すぐ…

詩織としたい



でも本当に…
こんな私で
いいの？

もう
そんなこと言うな！

これから
自分で自分を
傷つけないで

つらくなったら
俺にも
半分わけてよ

私の体で
きれいなところなんて
残っていないのに…

…うん…



い…
嫌じゃない？



うん

私のを
触ってくれてる…

岩永くんの指が

大丈夫だから

岩永くんの…

欲しい

いよいよ

挿れたい
太いの欲しいの!!

挿…れて…
いいよお♡

あ…そこじゃなくて
もつと…奥なんだけどな

いくよ…
詩織

うん

大好きな人と

つながるって……

あーん！

こんなに幸せなことだったんだ

あーあーあーあー

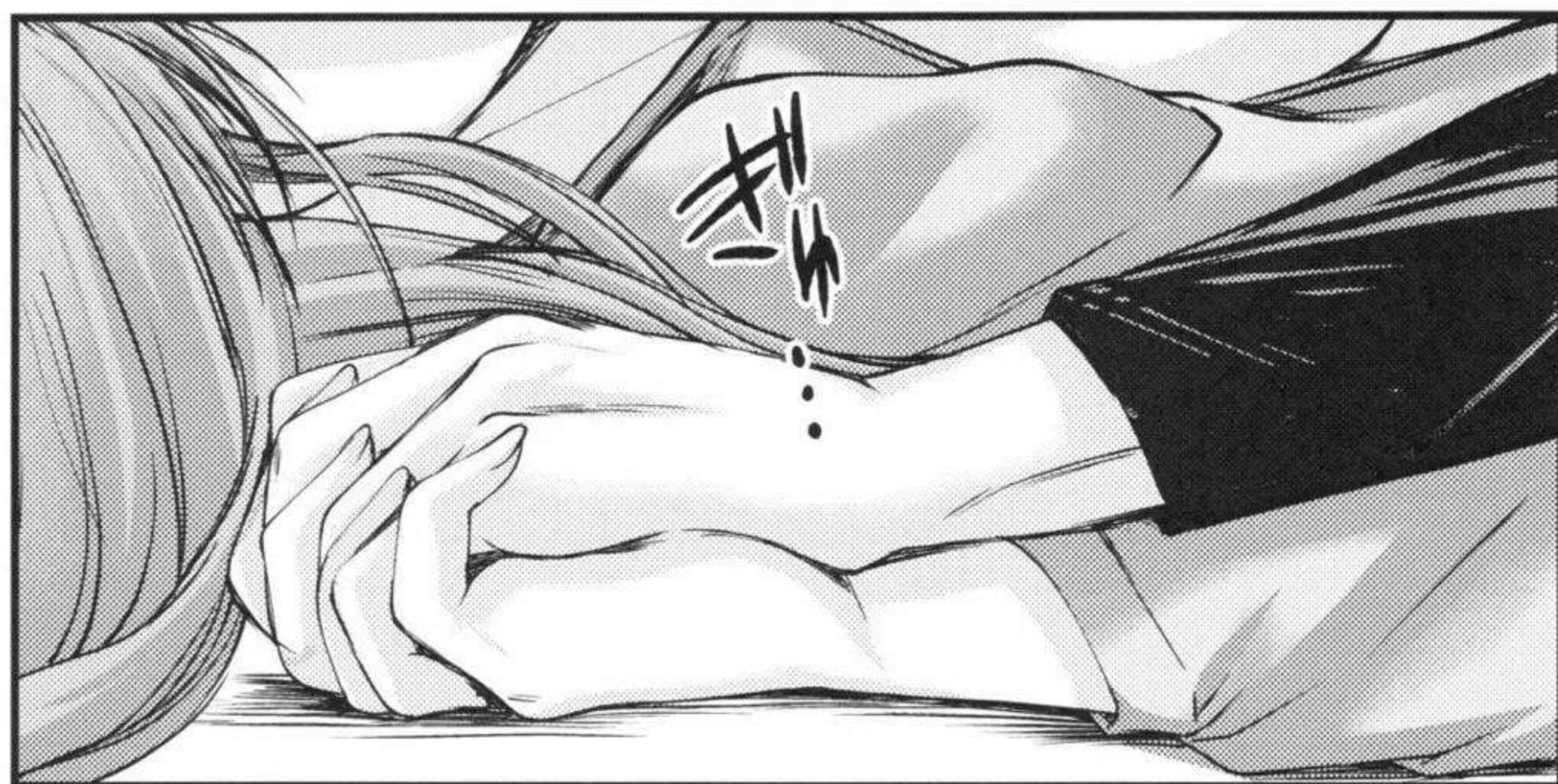
あーん

あーん



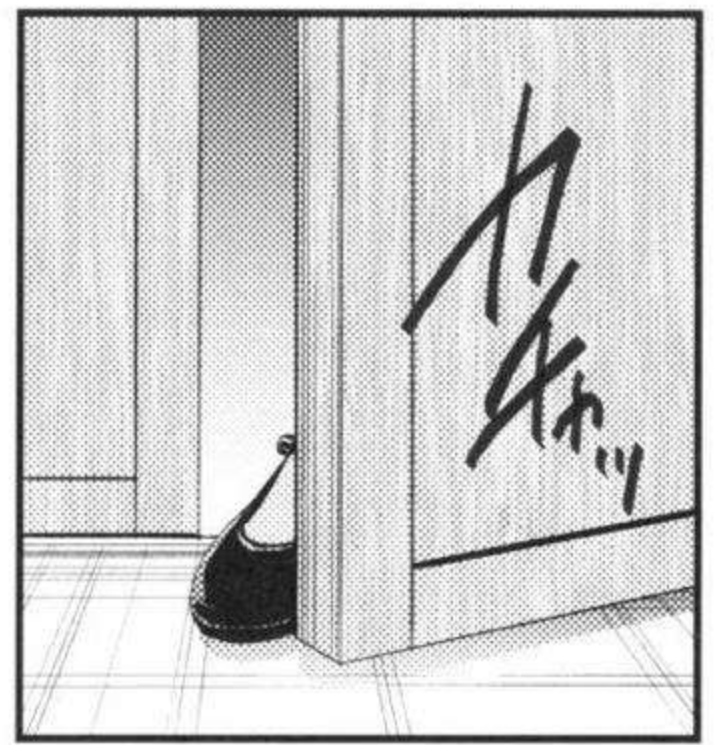
愛してる

詩織



私も：
世界中の誰よりも
あなたが好き



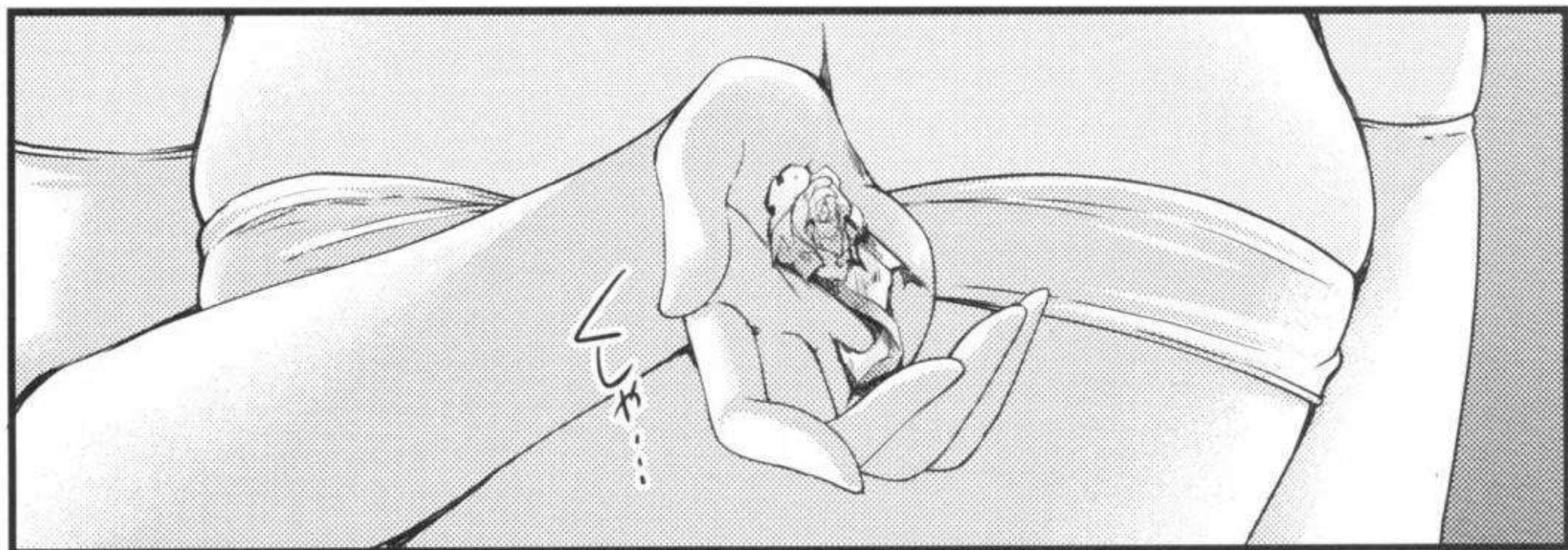




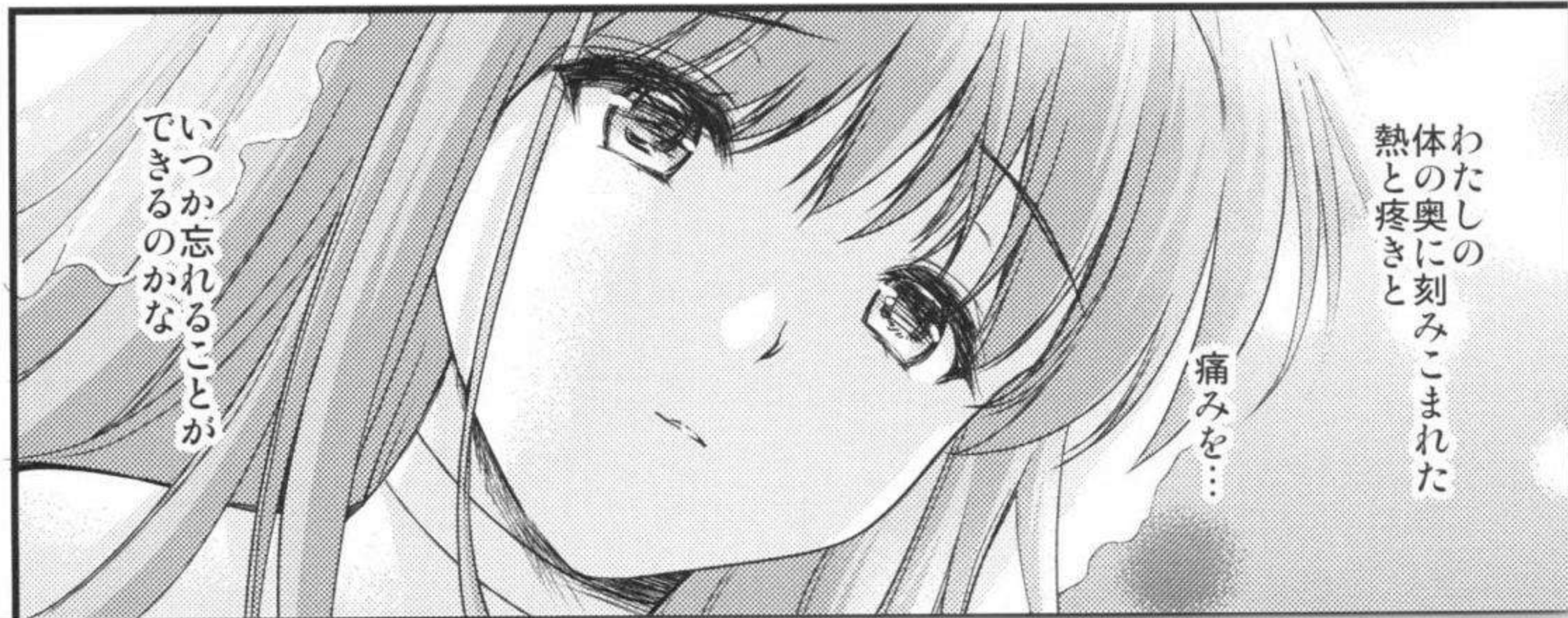
じゃああたしは
好雄さんと先に
行ってるから

また
あとでね

ノ
ノ
ノ



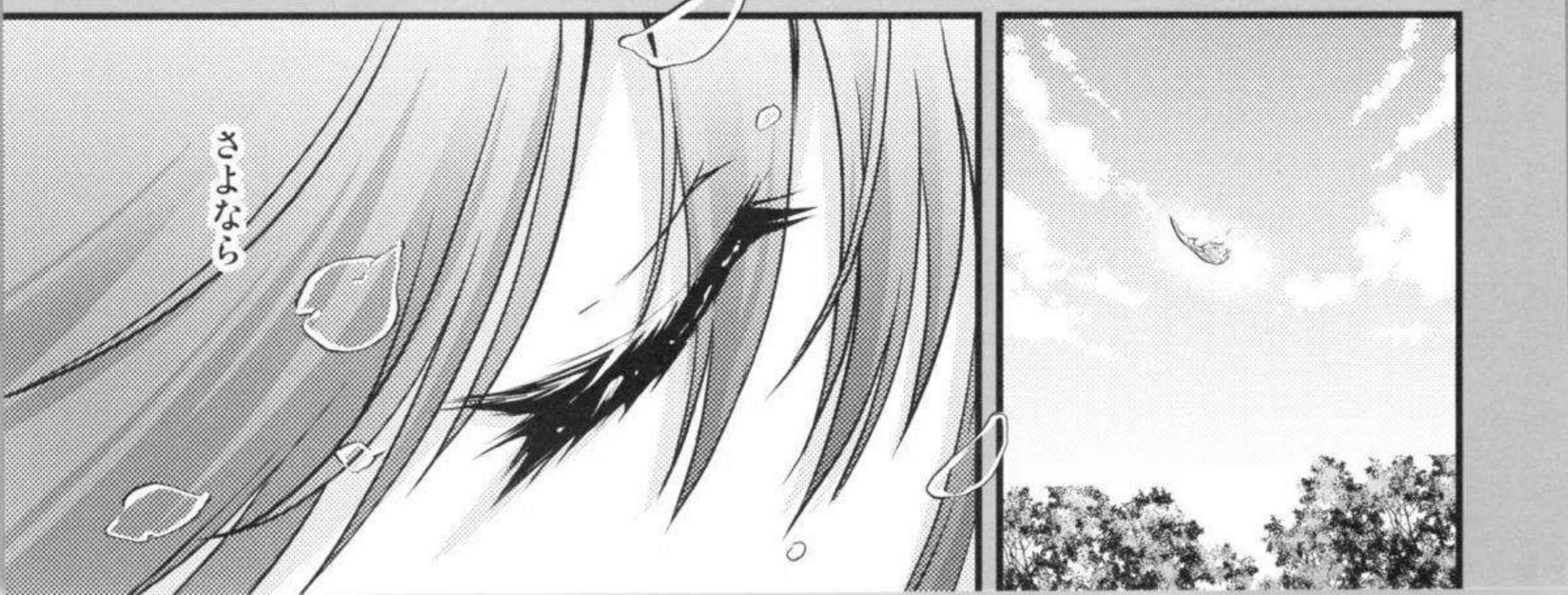
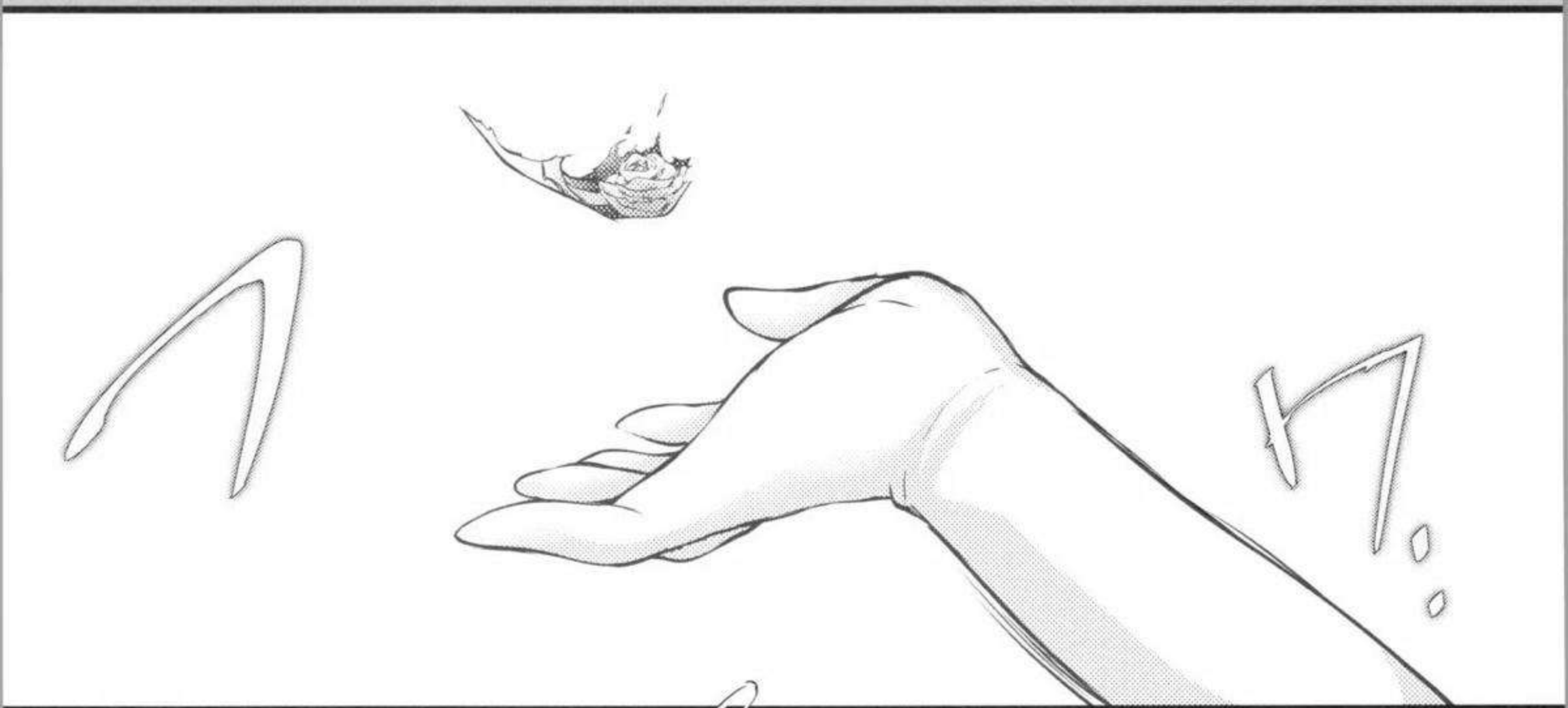
ノ
ノ
ノ



わたしの
体の奥に刻みこまれた
熱と疼きと

痛みを...

いつか忘れることが
できるのかな







わたし幸せだよ



詩織

Spinning

最終卷

しあわせのカタチ

The End

あいざわひろしです。

最後まで読んでくださって、本当にありがとうございます。

本作は「詩織」の最終巻・下巻【SHINING 編】となります。

完結にあたり、私は2つのエンディングを用意することにしました。

もちろん、最初からそう決めていたわけではありません。

岩崎さんの原作をご存じの方ならおわかりいただけると思いますが、原作のエンディングはとてあっさりとしたものでした。

しかし、私が漫画としてふくらませていく中で、そのままの結末ではどうしても合わないと感じたのです。

そこで「詩織」にふさわしい、新しい終わり方を考え、岩崎さんと話し合いながら物語を紡いできました。

エンディングへと向かいはじめたのが、第23章あたりからだったと思います。

26章を過ぎ、物語が佳境に入った頃——

「詩織ちゃんを幸せにしてあげてください」

「ハッピーエンドを待っています」

そんな声を、本当にたくさんいただくようになりました。

その応援や優しい感想のひとつひとつが、私を励ましてくれました。

けれど、正直に言うと困惑もしていました。

なぜなら、私と岩崎さんの中ではすでに結末は決まっていて、それは皆さんの願うような「幸せ」ではなかったからです。

ですが、歳を重ねるうちに思うようになりました。

——こんな「救し」もあっていいのかもしれない、と。

そして、長く待ってくださった方々への責任も感じました。

何年も話し合いを重ね、私たちはついにエンディングを分岐させることを決めました。

tt「SHINING(光)」——それが今回のタイトルです。

単に「ハッピーエンド」と呼ぶのは、どうしても抵抗がありました。

それは、岩永によって「救われる」安らぎのエンド A。

そして「そうではなかったけれど、やっぱり幸せな」エンド B。

私たちはゲーム制作の経験もあり、この2つの結末を描くことに、自然に向き合うことができました。

(…もちろん、作画の大変さを除けばですが。)

この最終巻は——

「皆さんが望んでくれたであろう、光の結末」

そんなハッピーエンド・バージョンです。

創作の一貫性を欠く、と言われるかもしれません。

それでも私は、「誰かに喜んでもらえるものを作りたい」という想いを大切にしています。

このエンディングは、その想いを形にしたものです。

ハッピーエンドを望んでいた皆さんは、ここで物語を閉じてもらってかまいません。

ここまで待っていてくださって、本当に、本当にありがとうございました。

そしてもうひとつの結末——

タイトルは「DARKNESS(闇)」。

別のかたちの「しあわせ」を描きたいと思います。

冬の刊行を目指していますので、もし興味を持ってくださる方は、もう少しだけお待ちください。

2025.08 あいざわひろし

From Comic Artist

Free talk

詩織が、なぜ結末になったのかについて書きたい。

コロナ禍前の2017か18年だったと思う。記憶は不確かなのだけど、西館にいて、夕方だった。そして、あいざわひろしは買い物に出かけていていなくて、スペースに1人で御留守番している僕のところに、一般の方がふらりとやってきて詩織を購入すると、僕に話しかけてきた。

「詩織っていつ頃終わりますかねえ？」

「あと、数冊ですから、早ければ2-3年ですね」

そのころ、あと2-3年で詩織は終われるなあと思っていた。

ここで明言しておくが、紆余曲折はあったけれど、大きなプロットは23年ほど前に仕立て直してから、一度も変更を加えたことがなく、ほぼ結末に向かってまっすぐ走っていた。

だから自分にとっては自明でしかなく「いつ終わるんですか？」と聞かれること自体が面倒で、たいていは「もう数冊で終わりますよ」と答えていた。

その方は非常に強い口調で僕にこういった。

「最後はハッピーエンドで終わらせてください。笑顔です、笑顔！」

それを聞いて、僕は受け手側と作者の非対称性に関する、何度も考えていた問題について、また考えていた。

一般的に悲劇と喜劇ではどちらが好まれるかという、言うまでもなく喜劇だ。

そして特にCRPGでは完全無欠のハッピーエンドが好まれる。理由は、もちろんプレイヤーが登場人物に思い入れるからだ。だからこそ『ラスト・オブ・アス』がビッグリされたし、僕が考えた『天外II』のエンディングは却下になった。

その理由はプレイヤーが操作するからだとされているのだけど、面白いことに、プレイヤーが操作するからハッピーエンドが好まれるという話は、昔のアーケードでは案外「正」ではない。

例えば『イメージファイト』、『最後の忍道』、『ブレイザー』、『ニンジャウォリアーズ』、『チェルノブ』などなど、間違ってもハッピーではないエンディングのゲームはゴロゴロしており、もちろん名作と呼ばれるものもある。これらはもちろん鬱エンドと言われるが別に嫌われるというほどのことはない。

つまりプレイヤーが操作するからハッピーエンドが好まれるというのは、どうにも疑わしい。

なぜか？ 僕はこの答えを単純にプレイ時間が理由だ考えるようになった。長くプレイする作品ほどプレイヤーキャラクタの距離は近づくのだから、ハッピーエンドが好まれる。少なくともよく知った人間に不幸になってほしいという人は珍しいだろう。

だから、同じように作品が長くなるほど、キャラクタは読者にとって近い存在になり、同じように「少なくとも不幸にはなって欲しくない」と思うようになると、考えるようになっていた。というところで詩織に話は戻る。

僕にとって、詩織は高校3年の夏前の6月ごろから始まり、あくる年の3月、卒業式の日が終わる、9カ月ほどの物語で、起こった事に見合うバランスの結末を用意していた。

でも、読者にとっては、結末がどうなるのだろうかと思いながら、登場人物たちを見てきた、30年続いてきた物語なのだ。

それを「これがバランスがいいので、この結末です」は、読者に悪すぎると思い、あいざわひろしと話し合っ、ハッピーエンドに修正するという判断に至ったわけだ。

なお、島田と羽黒については一度も変わっていない。

ところで、ここでさらにバラすと、実はこの結末は未完成だ。

公式の結末はこれで、僕とあいざわひろしが考えた結末はこれでした、という二本立ての予定だったのだけど、なーんと、間に合わなかったのだ。

なので、冬に作者はこうするつもりだったという結末を出して、詩織本編は完結する予定である。少々かっこ悪いが、せっかくここまでやったのだから、ちゃんと掉尾を飾るものもやっておきたいのである。

2025.08 いわさきひろまさ



Volume 30
Final Part
The Shape of Happiness

■ **作画** あいざわひろし

■ **背景アシスタント** 大久保

■ **カラーアシスタント** こまつぶ / 紅寅

■ **下塗り** いまくるす

■ **管理・雑用** げんさくしゃ

2025年8月17日 初版

URL <http://www.highriskrevolution.com>
e-mail webmaster@highriskrevolution.com

印刷 上野印刷所

禁 無断転載・コピー・アップロード



HIGH RISK REVOLUTION